

高次救命治療センターの

外来診療あるいは入院診療を受けられた患者さんへ

「感染症患者における免疫グロブリンと 重度症の相関を解析する」への協力をお願い

高次救命治療センターでは、過去に下記のような診療を受けた患者さんのデータを用いた臨床研究を行います。患者さん個人のお名前や、個人を特定できる情報は一切公表しません。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

研究の対象：2008年1月1日～2015年12月31日までに感染症・敗血症に罹患し、当院のICUもしくはACCに入院していた患者さん

研究期間：倫理審査委員会承認日～2021年2月28日

研究目的・方法：敗血症は感染による全身炎症反応であり、免疫抑制により高い死亡率をきたします。生体内ではIgM等の免疫グロブリンを産生することで原因となる微生物に対抗していますが、申請者らは血清IgM値と重症度が強い相関関係にあることを少数例ではありますが、発見しました。本研究の目的は、重症敗血症における免疫グロブリンの多寡が、重症度やその他の因子に影響を及ぼすかどうか、後ろ向きに検討し解析します。

研究に用いる試料・情報の種類：患者情報：主病名、感染臓器、感染症グレード、二次感染、年齢、性別、一般身体所見：身長、体重、BMI、血液検査（Day 1-3、6-10）：白血球数、好中球数、リンパ球数、血小板数、生化学検査（Day 1-3、6-10）：総蛋白、アルブミン、IgM、IgG、IgA、総脂質、CRP、栄養評価項目：投与カロリー、投与蛋白、RBP、Tf

重症度：APACHE2スコア、SOFAスコア、人工呼吸器非装着期間、免疫グロブリン投与有無、ステロイド投与有無、HDF施行有無、PMX施行有無、全入院期間、ICU入院期間、院内死亡有無、28、60、90日死亡

研究への参加辞退をご希望の場合

この研究に関して新たに患者さんに行っていただくことはありませんし、費用もかかりません。この研究では当科において既に管理している患者さんのデータを使用させていただきます。患者さん個人のお名前や、個人を特定できる情報は一切公表いたしません。

この研究に関して不明な点がある場合、あるいはデータの利用に同意されない場合には、以下にご連絡ください。なお、本研究は、岐阜大学大学院医学系研究科医学研究等倫理審査委員会の承認を得ております。また、この研究への参加をお断りになった場合にも、将来にわたって当科における診療・治療において不利益を被ることはありませんので、ご安

心ください。

研究から生じる知的財産権の帰属と利益相反

研究者及び岐阜大学に帰属し、研究対象者には生じません。研究の結果の解釈および結果の解釈に影響を及ぼすような「起こりえる利益相反」は存在しません。

連絡先

岐阜大学医学部附属病院 高次救命治療センター

電話番号 058-230-6448

担当医師： 岡田英志、鈴木浩大